

『活かすは「地産」
きめ手は「地消」』

売り場での情報の発信と収集
東京駐在員レポート

社団法人 鹿児島県特産品協会
東京駐在所長 平山 宏之

「とれたて村」は平成17年10月に開業。18坪程の店内には板橋区との交流都市の特産品約800品目が販売されている。利用者は、大半が主婦で、新鮮な野菜や惣菜、菓子、調味料などが売れ筋のようだ。土、日には、「とれたて村」に出品している製造者や行政担当者などが商店街に来て、足湯の体験や、牛の搾乳体験などの多彩なイベントも実施している。同組合の水野事務局長は、「単に地域の特産品を販売するだけでは一過性で終わってしまう。『首都圏で販売したいが、すがない。消費者の生の声を聞き商品開発に活かしたい。観光客誘致に結びつけたい。』」など、製造者、地域、行政などの要望を受け入れながら、地域の方々と一緒になって本気で取組まなければ、効果は生まれにくい。良い話だけではなく、商品の量、味、価格、特に添加物など、消費者の意見を本音で製造者に伝えることで、売れる商品へ改良するための役割を担っているのです。」と語る。

「とれたて村」は商店街の一角にある一店舗ではあるが、単にモノを販売するだけではなく製造者と消費者をつなぐ「情報交流拠点」として、注目を浴びるショップとなった。製造者自らが売り場に立ち、商品や産地についてのさまざまな情報発信を続けている。



とれたて村の店舗

当協会東京駐在では、首都圏等の小売店・業務店などと常に情報交流を図り、会員の皆様に必要と思われる情報のフィードバックするとともに、会員の皆様と一体となって特産品を売り込んでまいりますので、各位の積極的な取り組みを期待しております。お気軽にご相談ください。

『伝えようさつまの
「技」と「心」』

流通最前線情報

「鹿児島県の文化とあわせ、一歩踏み込んだ商品提案を」

ユニー株式会社 名古屋
中京本部 食品部長 小川 高正さん



「芋焼酎、菓子、さつまあげ、黒豚角煮といった、お客様が鹿児島をイメージしやすい商品が良く動いている。また、『買ってすぐに食べられるもの』が売れるポイントである。きびなご・トビウオは、フェアで毎回売り込んできた効果もあり、定着しつつあるようだ。」と語るのは、今年3月、ユニー(株)中京地区の全店75店舗で開催した「九州うまいもん市」を統括する小川食品部長。フェア全体では約5億円、うち、鹿児島県産品は約2億円を売上げた。

愛知県稲沢市に本社を置くユニー(株)は、中京地区を中心に1都18県の主要都市に158店舗を展開している総合スーパーである。平成19年2月期の売上高は7,268億円、コンビニやカード会社を含むグループ全体の売上高は1兆2千億円を超えている。

今年3月には、名古屋市内の同社の「アピタ鳴海店」で鹿児島フェアが開催され、伊藤県知事も県産品と観光をPRした。また、同じく3月に中京地区全店で開催した「九州うまいもん市」では購入者を対象とした「鹿児島産地見学体験ツアー」ご優待の募集を行い、6月中旬に県内各地の製造工場や観光地を巡るツアーを実施した。

さらに6月初めには、ユニー本社で熊本・



6月にユニー本社で開催した南九州3県合同商談会

宮崎・鹿児島・南九州3県合同商談会を初めて開催し、今秋開催予定のフェアに向けた準備をすすめている。

「九州では鹿児島県が一番特色の出やすい県だが、生産者による食べ方の提案が弱い。焼酎は日々飲むお酒として定着したが、『焼酎のつまみには鹿児島産の〇〇が合う』など、一歩踏み込んだ商品提案がこれからは必要となってくる。」「安心・安全な商品背景、地元ならではの食べ方や美味しいレシピ、歴史背景など、商品だけでなく鹿児島県の文化を含めて紹介して欲しい。」と鹿児島の商品をより身近に感じてもらう、繰り返し購入を促すための今後の課題を小川さんは指摘する。

「中部地区、特に愛知は、鹿児島出身者の多い地域でもあり、お客様の期待も大きい。また、フェアを楽しみにしていただいているお客様も回を重ねるごとに増えているので、毎回、新たな鹿児島を紹介できるようにご協力をお願いしたい。来年はまた、篤姫があり、鹿児島をPRするチャンスでは。」と今後の鹿児島に期待を寄せている。

『特産品 さつまの誇り
活かす先人の知恵』

ことと、販売者が産地へ情報をフィードバックし商品の開発や改良につなげることが相まって、消費者のニーズをつかんだ商品提供が可能になる仕組みができていく。

産地偽装、牛肉表示偽装などにより、消費者の食に対する不安がますます強くなっている。昨今では、商品だけではなく、生産者や産地についての正しい情報を提供することが、消費者の安心につながっていく。これらのニーズにマッチしたモノづくりをするためにも、製造者は積極的に消費者とのコミュニケーションを図る必要がある。産地と一体となって本気で取組んでくれるパートナーを見つけてこそ、商品が売れる近道かもしれない。

鹿児島県伝統的
工芸品月間推進協議会
協会となく
団体
鹿児島県観光交流局 寺師 勉氏
かしまPR課 課長

鹿児島県伝統的工芸品月間推進協議会は、今年11月に鹿児島市で開催される「第24回伝統的工芸品月間国民会議全国大会」を円滑に運営し、県内の伝統的工芸品産業の振興を図るとともに、本県の物産、観光、歴史などを広くPRし、地場産業の振興を図ることを目的に、知事を会長に、34団体で構成して、今年3月に設立されました。

当大会では、一日目の11月7日(水)に宝山ホールで記念式典などを行い、続く8日(木)から11日(日)までの4日間、鹿児島アリーナで全国伝統的工芸品フェスタを開催します。当フェスタでは、全国の国指定及び県指定の伝統的工芸品を一堂に展示・販売するほか、製作実演・体験を行うとともに、本県の様々な特産品の販売、観光紹介なども実施して、大会をより魅力的・効果的なものにしたいと考えております。



昨年11月石川県で開催された全国大会風景

多くの集客を図るため、県内外に当フェスタ会場を含めた旅行商品の造成も働きかけながら、効果的な広報宣伝などに努め、素晴らしい大会になるよう取り組んでまいりますので、県特産品協会会員の皆様方のご協力をより一層お願い申し上げます。

かごしまの新特産品
コンクール実行委員会
協会となく
団体
会長(鹿児島県観光交流局長) 庭田清和氏



2006かごしまの新特産品コンクール会場風景

かごしまの新特産品コンクール実行委員会は、多様化する消費者ニーズに対応した売れる商品づくりを促進するため、県内で新たに製造された商品のコンクールを開催し、生産者の技術向上と製品開発意欲の高揚を図るとともに、入賞商品の販路拡大に努め、もって活力ある地場産業の育成・振興を図ることを目的に、鹿児島県、鹿児島市、(社)鹿児島県特産品協会の三者により、平成17年度に設立されました。

昨年度は、九州新幹線鹿児島ルートの中線開業を見据えて観光土産品部門を創設しました。出品数は前年を44品目上回る計289品目と多くの商品が県内各地から寄せられました。入賞賞品については、パンフレットの配布の他、県内外であらゆる機会をとらえて展示・販売するなどPRしました。

今年度は、NHK大河ドラマの放映を見据え、観光土産品の部に「篤姫」テーマ部門を新たに設けるとともに、入賞点数も計10点増やすこととし、7月上旬より募集を開始しております。

9月7日が申込期限となっておりますので、県特産品協会会員の皆様方のご積極的なご応募を期待しております。